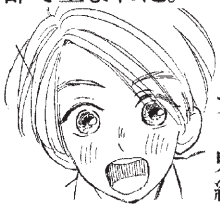
マルクス&エンゲルス vol.1

高文研

はじめに

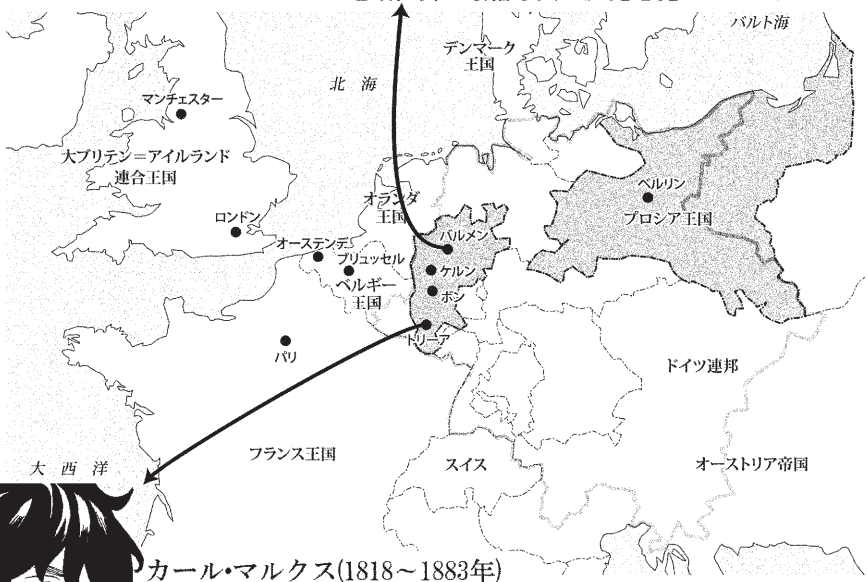
今から200年前、日本が江戸時代末期の頃、ヨーロッパは殆どが王政の国で、ドイツもいくつかの小王国で構成する連邦だった。その中で一番大きかったのがプロイセン(英語ではプロシア)王国で、領土が東西に分かれていた。東部は大地主が農奴を支配する封建的な性格が強く、西部は工業が発達し資本主義の道を歩み始めており、マルクスと2歳下のエンゲルスは共に西部で生まれた。



フリードリヒ・エンゲルス(1820～1895年)

1820年11月28日、3人の弟、4人の妹の8人兄弟の長男として生まれた。バルメンは紡績業で繁盛した工場町で、祖父は工場の創始者だった。父は二人のオランダ人とエルメン＆エンゲルス商会を共同経営し、イギリスのマンチェスターへも事業を拡大していった。エンゲルスは、信仰心厚い地域社会と厳格な父に反発を覚えていた。

＜当時のドイツの地図＞



カール・マルクス(1818～1883年)

1818年5月5日、9人兄弟の3番目に生まれたが、内5人が幼児のうちに死亡し、マルクスと姉と2人の妹だけが成人した。一家はユダヤ教徒であったが、父が弁護士を続けるためキリスト教に改宗した(母は夫の死後改宗)。トリーアはフランスと隣接しており、フランス革命後の自由主義的なナポレオン法典がマルクスの思想形成に影響を与えたと考えられる。後に、世界の三大ベストセラーの一つである『資本論』を書き上げた。

マルクス・エンゲルス、人物説明

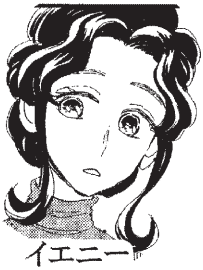
ルーゲ
(1802～80年)
青年ヘーゲル派の一人で民主主義的なジャーナリスト。マルクスとの共同編集で『独仏年誌』をパリで発行した。

フォイエルバッハ
(1804～72年)
青年ヘーゲル派だが、自然を基礎にした人間の立場から、ヘーゲルの哲学と神学を批判した唯物論者。『キリスト教の本質』を出版して青年ヘーゲル派の中で圧倒的な支持を得た。

ヘーゲル
(1770年～1831年)
後世に大きな影響を与えた偉大な哲学者。あとを継ごうとする人々の間には様々な違いが出る。ヘーゲル哲学の保守的な部分を継ぐ保守派。政治的立場ははっきりしない中間派。ヘーゲル哲学の革新的な部分に注目した青年ヘーゲル派。マルクスもエンゲルスも一時期このグループに所属した。

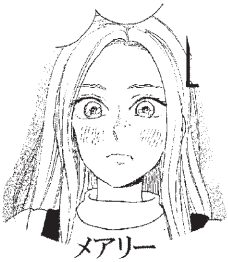
ヘス
(1812～75年)
ヘスはマルクスより6歳上だったが、マルクスの才能を高く評価し、マルクスをライン新聞の編集長に推薦

バウアー
(1809～82年)
青年ヘーゲル派のリーダー的存在。マルクスとも親交を深めたが、ライン新聞で意見が対立し決別した。



イエニー
マルクスの
恋人

シュテルナー
(1806～56年)
青年ヘーゲル派の一人。個人を利己としてとらえ、「エゴイスト」の概念を最初に主張した。



メアリー
エンゲルスの
恋人

目次

第Ⅰ章　マルクス編……5
第Ⅱ章　エンゲルス編……55

第Ⅰ章　マルクス編

ほら

食え！

お兄ちゃん特製の泥だんごだぜ〜〜

ぞぞぞ

ぞぞ

ドイツプロイセン領トリーア州某年某日

二人の妹をいじめて山をかけぬける少年…

いやあ〜

まてえ〜

どたたた

俺の名はカール・マルクス

その神様がそっと手をかざすと

たちまち泥だんごは良い香りがした

その香りはまるで…チョコレートのように甘く…

シチューのように優しい…おいしい香りだ

そうまさに

こんなふうにかざしたのさ

ひら

ひら

じゃりっ

うえっ

まずーい！

じゃりじゃりするよう

そりゃそうさ俺は神様じゃないものね

ばかだなあ

こら！カールまた二人をいじめてるの？

そんなんじゃいつまでたっても女の子にモテないわよ

ソフィー姉ちゃんカール兄をいじめないで!!

ないで!!

ドヤ!!

へへン

なっ

おじゃましまーす

ぱ ああ

あ

イエニー!!

あっちょっとあんたたち！

ぴゅーっ

キャロライン！アンリエット！まちなさい！

きゃっきゃっ

こんにちは

また来たわ

今日はもうカールのお話は終わったの？

うん さっき！

残念だわ ききたかったのに…

いいよ

イエニーは泥まんじゅう食べなくても話してあげる

ある貧乏な家の少年が

幼なじみで4歳年上の少女に恋するお話

聞きたい？
ええ ぜひ！
…少年が恋をする少女はベストファーレン家のお嬢様で村一番の美人なんだ
それからね…

マルクス&エンゲルス vol.2

高文研

〈はじめに〉

18 世紀後半から 19 世紀、ヨーロッパで起こった紡績機械や蒸気機関の発明による産業革命は、それまでの農業や手工業中心の封建体制を破壊し、大量の工場労働者（プロレタリア）と一握りの工場主（ブルジョア）の二つの階級（プロレタリアートとブルジョアジー）を生み出した。憲法も普通選挙権もない王政の時代に、生まれも育ちも全く違う二人の青年が、過酷な労働と貧困に苦しむ労働者のために立ち上がる。

〈第 1 巻のあらすじ〉

カール・マルクス
（1818 ～ 1883 年）

ユダヤ人弁護士の息子としてプロイセン領トリーアに生まれ、多感な青年時代を過ごす。

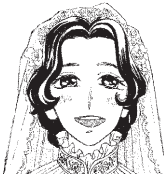
ベルリン大学では、喀血するほど研究に没頭して兵役を免れる。

モーゼス・ヘスの誘いで青年ヘーゲル派の一員となり、その後ケルンのライン新聞へ。24 歳で編集長となる。

青年ヘーゲル派のリーダー的存在であったバウアーの横柄な態度を批判し、青年ヘーゲル派と決裂したところへ訪れたエンゲルスを、門前払いする。

プロイセン政府が出した枯れ枝を拾うのも泥棒として罰するという「木材窃盗取締法」に憤り、厳しく国家を批判して新聞は発行禁止に。

辞職してトリーアに帰り、七年越しの愛を実らせ、貴族と平民という身分差を乗り越えた妻イエニーとともに、アーノルド・ルーゲの誘いでパリへ。パリで『独仏年誌』の執筆活動を始める。



フリードリヒ・エンゲルス
（1820 ～ 1895 年）

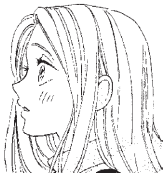
紡績工場主の長男としてプロイセン領バルメンに生まれるが、公害を垂れ流し、労働者をこき使いながら、教会では敬虔な信者を自負する父に反発を覚える。

一年間の兵役中に抜け出してはベルリン大学で聴講し、図書館で読んだフォイエルバッハに感銘を受ける。シュテルナーの誘いで青年ヘーゲル派に入り、ライン新聞にも投稿する。退役後、イギリスに向かう途中マルクスに会いに新聞社に立ち寄るが、門前払いされる。

門前払い!?

マンチェスターの工場で工場主の父に毅然と刃向かうアイルランド人の女工メアリーと出会い、イギリスの労働者の実態を一緒に調べながら互いに惹かれ合っていく。

アーノルド・ルーゲから『独仏年誌』の執筆依頼を受け、執筆者の中にマルクスの名を見つけ、バルメンへの帰途にパリに立ち寄る。



〈人物説明〉

K・シャッパー
（1812 ～ 70 年）
　植字職人で、ドイツ人亡命者の中の労働者でつくる秘密結社「正義者同盟」の創設者。ヴァイトリングとは対立する。エンゲルスに加盟を勧めるが断られ、マルクスの共産主義者同盟に合流・移行を推進。

G・J・ハーニー
（1817 ～ 87 年）
　イギリスで、普通選挙権を要求して立ち上がった市民運動「チャーチスト運動」の幹部の一人。請願書として出した人民憲章から、マルクスは集団で行動する時の綱領のイメージを得た。

レンチェン
（1820? ～ 90 年）
　本名はヘレーネ・デムート。イエニーの実家ベストファーレン家のメイドで、母がイエニーに遣わせ、マルクス家で家族同様の待遇を受ける。マルクスの死後はエンゲルスの世話をした。

P・J・プルードン
（1809 ～ 65 年）
　フランスの著名な社会思想家。『所有とは何か』で当時の社会に大きな影響を与えた。無政府主義の先駆者。マルクスは当初は評価していたが、『共産党宣言』では、ブルジョア社会主義者として批判した。

C・W・ヴァイトリング
（1808 ～ 71 年）
　仕立屋で、ドイツで最初の労働者出身の著作家。ユートピア的な平等主義的共産主義の理論家。

1837 年パリで結成された「正義者同盟」の創始者の一人。共産主義通信委員会でマルクスと論争し、決裂する。

K・グリューン
（1817 ～ 87 年）
　ドイツのジャーナリスト。真正社会主義者。ドイツにフランスとベルギーの社会主義を紹介した。プルードンの追随者。

H・クリーゲ
（1820 ～ 50 年）
　ドイツのジャーナリスト。真正社会主義者。1845 年に「正義者同盟」に加入、ヴァイトリングに共鳴。アメリカ支部の創立に奔走。

目次

第Ⅲ章　再会……5
第Ⅳ章　共産主義への道……35
第Ⅴ章　そして、未来へ……65

第Ⅲ章　再会

一八四四年
八月二八日
パリ

OPEN

ドクン

マルクス!!

ドクン!

カッ…

カール…マルクスさんですよね…

ドクン

っ…

ドクン

…わ

私は以前ケルンで一度お会いした…

フリードリヒ・エンゲルス…

…なぜここに？

あ…

故郷へ帰る道中でしたが

あなたにも改めてお会いしたいと常々

OPEN

ウム

すく

ドキッ

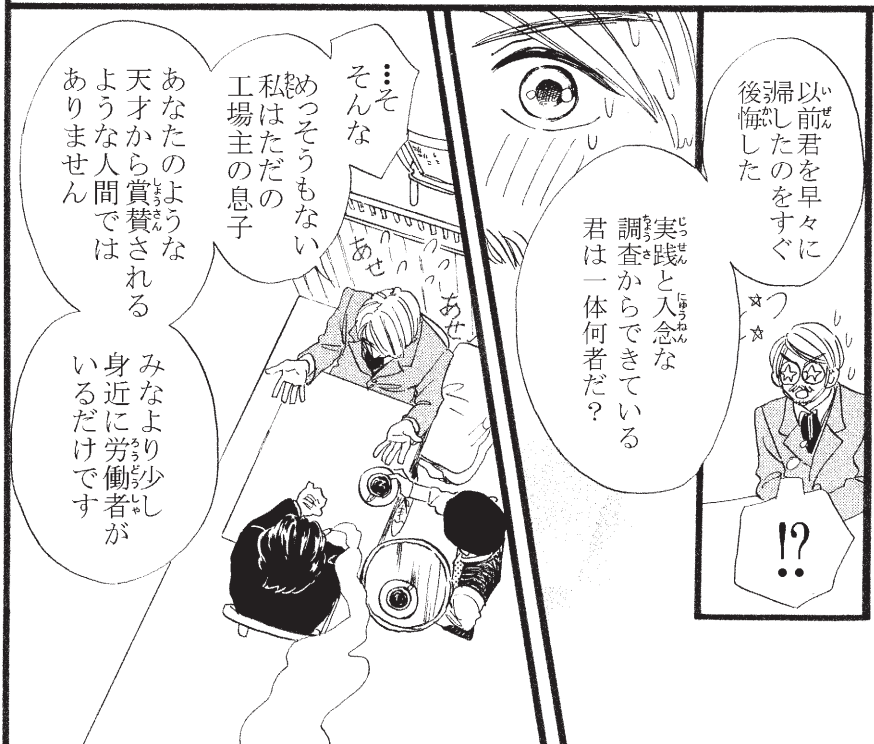
俺も君に会いたいと思っていた

店の中で話さないか

!? !? !?
コーヒー2つくれ
かしこまりました
しゅぼ
…
あの…
君の論文を読んだ
「国民経済学批判大綱」
一言で言わせてもらう
…は
ミロリ
ドキン
!

素晴らしい

前人未踏第一級の論文だよ



私もあなたの論文読みました

『ヘーゲル法哲学批判序説』

あなたの論文は的確で人を惹きつけ何より、説得力がある

「宗教とは悩める者のため息であり心なき世界の心情であるとともに」

「精神なき状態の精神である」

「それは」

「民衆の阿片である」

暗記までしているとは

カールだカールと呼んでくれフレッド君

はいっ!!

…ただ、人を魅了し酔わせ怒らせるあなたの才能に

経済学がいくらか身に付けば、より全宇宙の正解に早くたどりつくかとは思いました

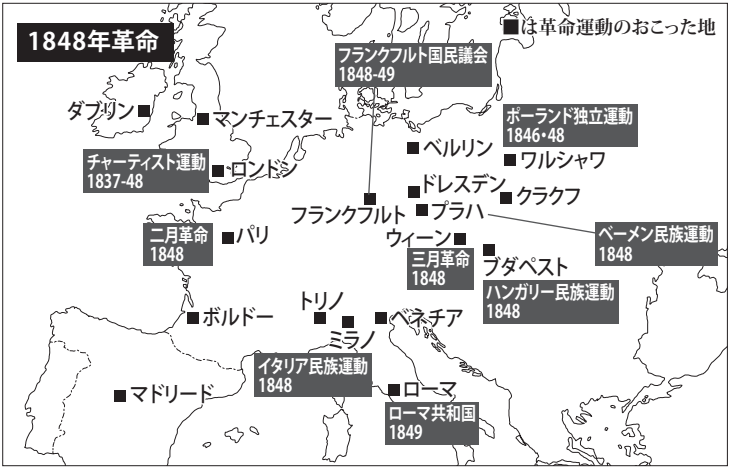
マルクス&エンゲルス

vol.3

高文研

＜はじめに＞

マルクスとエンゲルスが共産党宣言を発表した 1848 年 2 月は、フランスでは 2 月革命で共和制政府ができ、ヨーロッパ各地に独立運動や民族運動が広がっていた。革命の余波を恐れたベルギー政府に追放された二人はパリへ。そして、祖国ドイツで民主化を求める革命運動に身を投じるが、やがて反動勢力の巻き返しによる弾圧で、イギリスに亡命する。エンゲルスによる物心両面の支えを得て、労働者のために世界的大書『資本論』を執筆し始めるマルクス。立ちはだかる壁を乗り越えて、未来を変えようと奮闘する二人の、熱い友情の歴史が始まる。



＜第１巻あらすじ＞

＜マルクス＞ 1818～1883 年

ユダヤ人弁護士の息子としてプロイセン領トリーアに生まれ、多感な青年時代をベルリン大学で過ごし、ケルンのライン新聞でジャーナリストとして活動。

＜エンゲルス＞ 1820～1895 年

紡績工場主の長男としてプロイセン領バルメンに生まれ、金儲け主義の父親に反発しながらも、1 年間の兵役の後、マンチェスターで家業を見習う。

＜第２巻あらすじ＞

1844 年 8 月、パリで運命的な再会の後、意気投合した二人が、産業革命下で過酷な労働と貧困に苦しむ労働者の解放のために「社会を変えよう！」と立ち上がる。ベルギーのブリュッセルに亡命したマルクスを追って、労働者を搾取する悪徳商売を批判し、父と決別して、恋人とブリュッセルに来たエンゲルス。二人は、当時はびこっていた様々な偽共産主義を論破して、共産主義者同盟を結成。1848 年 2 月に『共産党宣言』を発表し、共産主義とは何かということを全世界に明示した。マルクス 29 歳、エンゲルス 27 歳であった。

＜人物紹介＞

＜カール・シャッパー＞
（1812～70）

「正義者同盟」の創設者だが、マルクスと共に「共産主義者同盟」に合流し、ドイツでの革命や新ライン新聞にも協力する。

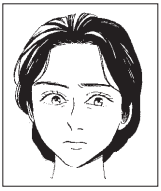
＜アンドレアス・ゴットシャルク＞（1815～49）

「共産主義者同盟」の一員だったが、ドイツで「労働者協会」をつくり、労働者に理論は不要と、マルクスと対立する。

＜フェルディナント・ラサール＞
（1825～64）

全ドイツ労働者協会の創設者。プロイセンの首相ビスマルクとつながり、独自の活動を進めるが、女性を巡る決闘で死ぬ。

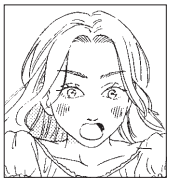
＜イエニー・ヴェストファーレン＞
（1814～81）



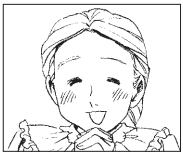
貴族の令嬢でありながら、マルクスとの7年越しの愛を実らせて結婚し、共に苦労を乗り越える4歳年上の妻。

＜メアリー・バーンズ＞（1823～63）

マンチェスターの工場で、エンゲルスの父に刃向かい、労働者の実態を調べるエンゲルスに惹かれ、恋人として協力。

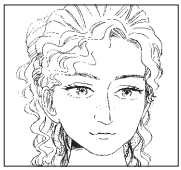


＜レンチェン＞
（1823～90）



本名は、ヘレーネ・デムート。ヴェストファーレン家の侍女だったが、家族同様の待遇で、マルクス家に仕える。

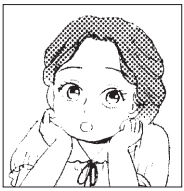
＜リジー・バーンズ＞（1827～78）



メアリーの妹。後にエンゲルスの妻に。

＜ジェニー＞
（1844～83）
マルクスの長女。

＜ラウラ＞
（1845～1911）
マルクスの次女。



＜エリーナ＞
（1855～98）
マルクスの3女。
あだ名：トゥシー。

目次

第Ⅵ章　ドイツ、革命の日々……5
第Ⅶ章　決心……51
第Ⅷ章　立ちはだかる壁……99

第VI章　ドイツ、革命の日々

一八四八年
フランス二月革命を皮切りにヨーロッパのあちこちで革命の気運が高まっていた
俺たちは共産党宣言を発表後
ドイツでも革命を起こすため、まずベルギーに向かった
ベルギー入国者は名前を！

次の者！
フリードリヒ・エンゲルス（27）
カール・マルクス（29）
カール・マルクスだ
フリードリヒ・エンゲルスです
ざわっ
妻のイエニーと子どもたち召使いもいる…
？
ざわ
カール・マルクスだと…
ざわ
ああそうだ
たしか…

マルクス!!

お前は国外追放令の対象だ
二四時間以内に出国せよ！

何!?

ベルギー国内
ホテルの一室

二月革命の影響か？

それもあるが…

母親から遺産の前貸しが届いたからな

革命運動につぎ込むと思われているらしい

でも見てくれ
フランスからの手紙だ

政権を勝ち取った共和制の臨時政府からか！

なになに『勇敢にして忠実なマルクス』

『自由フランスは貴下並びに神聖な大義のために闘う全ての人に門戸を開く……』

きゃー!!

行き先はパリねっっ

ああ、

急だが今晩会議を開こう共産主義者同盟の本部もパリに移したい

パーリ！パーリ！

会議で本部の移動は可決した

その夜…

ドンドンドン

誰なの…？こんな夜中に

ガチャ

ベルギー警察だ

カール・マルクスはお前か！

コンコンコン

ピチチチ…

おはようカール！

出発だ…

ガチャ!!

フレッドさん！
大変なんです
マルクス夫妻が!!

ど
どうしたレンチェン
何があった!?
カールとイエニーは!?
ふわ
ふ
ん!!

カールは
警察に…！
なに！
奥さまも
あとを追いました
が帰って
きません……!!
おそらく
拘留先は
市役所かと…
仲間を集めて
すぐに抗議
しなければ…！
く
っ…

市役所前
不当
逮捕だ！
マルクスを
返せー!!

マルクス&エンゲルス vol.4

高文研

＜はじめに＞

マルクスとエンゲルスが、ロンドンで「共産党宣言」を発表した 1848 年 2 月は、フランスでは 2 月革命で共和制政府ができ、二人も祖国ドイツで革命運動に身を投じるが、弾圧されイギリスに亡命。貧困、相次ぐ我が子の死に苦しむマルクスを支えるため、マンチェスターで家業にもどる決心をするエンゲルス。援助を受けながら『資本論』にとり組むマルクスだったが、1863 年 1 月、エンゲルスの恋人メアリーの死をきっかけに、二人の友情にひびが入る。19 世紀のヨーロッパを舞台に、歴史のうねりの中で、労働者のために世界を変えようと『資本論』にかける二人の情熱と、苦しくも雄々しい闘いの幕が上がる。

＜「マルクス最後の旅」の足跡をたどる＞

①ロンドン、メイトランド・パーク・ロード
1882 年 9 月末、一度自宅に戻る
1883 年 3 月 14 日、書斎で息を引き取る

②パリ、リヨン駅
1882年2月16日、娘たちに見送られ療養の旅へ

③マルセイユ
1882 年 2 月 18 日、郵便船でアルジェへ

④アルジェ
ペンション・ビクトリアに 2 ヶ月滞在
1882 年 5 月 2 日に港から発つ

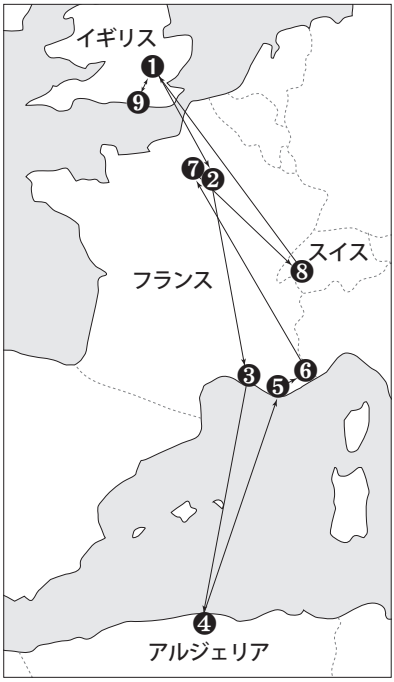
⑤カンヌ
短期滞在

⑥モンテカルロ
1 ヶ月滞在

⑦アンジャントゥイユ
数週間滞在し、家族と過ごす

⑧レマン湖畔、ヴヴェイ
ラウラに付き添われて約 1 ヶ月療養

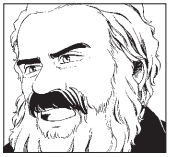
⑨ワイト島ヴェントナー
数ヶ月療養



『マルクス最後の旅』（太田出版）を参照して作成。

＜人物紹介＞

＜カール・マルクス＞（1818 ～ 83）
ユダヤ人弁護士の息子としてプロイセン領トリーアに生まれ、ベルリン大学で学び、ライン新聞でジャーナリストとして活動するが、弾圧されパリへ。エンゲルスと再会、意気投合し「共産党宣言」を発表。その後『資本論』にとり組む。



＜フリードリヒ・エンゲルス＞（1820 ～ 95）
紡績工場主の長男としてプロイセン領バルメンに生まれ、金儲け主義の父親に反発しながらも、マンチェスターで家業を見習う。マルクスと再会後、父と決別するが、やがてマルクスを支えるため苦渋の決断をし、再び家業に戻る。

<ヴィルヘルム・ヴォルフ>
（1809 ～ 64）

共産主義通信委員会からの二人の親友で、『新ライン新聞』の編集にも加わり、死後全財産をマルクスに遺贈した。

<ジョン・ウエストン>
（？～？）

ロバート・オーエン派の大工だったが、国際労働者協会の総評議委員会で、「賃上げ無用論」を提起し、マルクスに論破されて、マルクス支持者になる。

<ローザ・フルーベル>

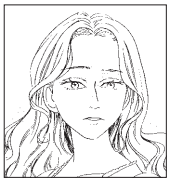
マルクス最後の旅先アルジェリアで出会う（架空の人物。106 頁参照）。

<イエニー・ヴェストファーレン>
（1814 ～ 81）

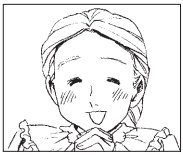
貴族の令嬢でありながら、マルクスとの 7 年越しの愛を実らせて結婚し、共に苦労を乗り越える 4 歳年上の妻。

<メアリー・バーンズ>（1823 ～ 63）

マンチェスターの工場で、エンゲルスの父に刃向かい、労働者の実態を調べるエンゲルスに惹かれ、恋人として協力。



<レンチェン>
（1823 ～ 90）



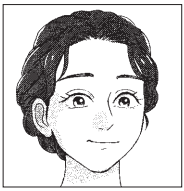
本名は、ヘレーネ・デムート。ヴェストファーレン家の侍女だったが、家族同様の待遇で、マルクス家に仕える。

<リジー・バーンズ>（1827 ～ 78）

メアリーの妹。メアリーの死後、エンゲルスを支え、死ぬ直前に結婚式をあげ、エンゲルスの妻となる。

<ジェニー>
（1844 ～ 83）
マルクスの長女。

<ラウラ>
（1845 ～ 1911）
マルクスの次女。



<エリーナ>
（1855 ～ 98）
マルクスの 3 女。
あだ名：トゥシー。

目次

第Ⅸ章 『資本論』誕生……5
第Ⅹ章 別れ、そして出会い……51
第Ⅺ章 万国の労働者団結せよ……105

第IX章

『資本論』誕生

君の冷ややかな
態度に衝撃を受け

しばらく返事が
書けなかった

僕たちが
その程度の友情で
あったのなら…

やあ

ヴィルヘルム・
ヴォルフ（54）
（あだ名：ループス）

ループス！

最愛の女性を
亡くして意気消沈
しているんじゃ
ないかと思ってね

何
カールと喧嘩を!?
メアリーの亡骸がまだ部屋にある時だった
それなのに彼は僕への慰めもほどほどに金の話を始めたんだ
怒って当然だろ!?
…でもきつく言いすぎたんじゃないかとも思ってしまって…
いや！
君の怒りは正当だあとはカールがどう反応するかだ
今頃君の手紙を読んで震えながら反省してるさ

ぶわ!
そうだといいなあ
でもカールが今までイェニー以外の誰かに心から謝ったところは見たことがない
謝ってほしいけど…
待ってみたらどうだい？親友だろ？
とにかく今は目の前の悲しみに向き合って乗り越えることだ
ループス…
ありがとう少し気持ちが楽になった

その頃……

ぶるぶる

ぶるぶる

ど

どど

どうしよう!!

フレッドを完全に怒らせてしまった!!

カール・マルクス（44）

あんなに動揺しているカールを見るのは初めてだわ

ひょこっ

パパどうしたの？

トゥシー…
親友のフレッドを
怒らせてしまったんだ

俺は……自分の
ことしか考えて
いなかった

会いに行ってでも
謝りたいが…
そんな金無いし

手紙で謝っても
許してもらえるか…

大丈夫よ！

心から謝りたいって
気持ちで書けば、
必ずわかってくれるよ

だって親友でしょ！